

第12回滋賀県子ども若者審議会 会議概要

1 開催日時・場所

平成31年2月6日(水) 14時00分～16時00分
県庁新館7階大会議室

2 出席委員(五十音順、敬称略)

安部侃、上田薫、宇田達夫、大久保和久、金子紘子、小林江里子、鹿田由香、
高橋啓子、野田正人、藤井登喜男、皆川香織、湯室美世子、渡部雅之

3 議題

(1) 子育てに関する県民意識調査、ひとり親家庭等生活実態調査の結果について

資料1 滋賀県子育てに関する県民意識調査<平成30年度結果報告書>
平成30年度滋賀県ひとり親家庭等生活実態調査結果報告書

(2) 淡海子ども・若者プラン次期計画検討の進め方について

資料2 子ども・若者プラン次期計画検討の流れ

(3) 部会の設置について

資料3 子ども・若者プラン次期計画の概要について

資料4 滋賀県子ども・若者審議会 部会委員名簿(案)

【参考資料1】子ども・子育て支援検討部会報告書の概要(平成26年度各部会報告書)

【参考資料2】滋賀県基本構想(案)

(事務局) 本審議会は、滋賀県子ども若者審議会規則第4条第3項の規定により、委員の過半数の出席が必要となることから、委員数20名中12名が出席していることから、本審議会は成立していることを報告する。

(事務局) (資料1) 滋賀県子育てに関する県民意識調査および滋賀県ひとり親家庭等生活実態調査の結果について報告。

(委員) ひとり親の生活実態調査の回収結果がちょっと少なく感じるのと、私の周りの人とこの結果とが、何となくずれているかなと思う部分がある。本当にしんどくて、明日の生活もままならないような人がこういうアンケート調査に参加されるだろうかと思うと、本当にしんどい人たちというのが、ここから漏れてしまっているのではないかと気になっている。

(会長) 子育てに関する県民意識調査結果において、地域の子どもへの関わり等について、乳幼児、小学生との関わりが全くないと回答されている方が5割ぐらいある。先日、子ども食堂をしていらっしゃる方が、「今、子どもは自信が持てない傾向にあると言われていたが、地域の大人をどのぐらい知っているかということが自信とか自己効力感につながっている。」とおっしゃっていた。この結果を見るかぎりでは、子どもが地域の人を何人知っているかというところは少し心配になるという感想を持った。

子どもの支援をしておられる方によると、乳幼児にしても、小学生にしても、大人がたくさん声を掛けてくれて、たくさん大人のことを、どこどこのおじさんとか、どこで会う人とか、名前は知らないけどあきこで働いている人とか、たくさん挙げられるほうが子どもは自信を持てるという結果も含めて他のデータとも併せてアセスメントをしていけるといいかと思う。

(委員) ひとり親家庭の少し収入が増えたとか、環境が良くなっているということは、労働人口が減っている中、人材を確保するために、一人一人に少しでも給料を上げて仕事に携わってもらおうという企業努力があるので、一概にいろんな行政の方策がここに効いてきたとは言いつらいのではないかと思う。

これから、いろんな行政の方策をやっていく中で、企業がどういう立場にあるのかということも入れて、目指す姿は一緒なので、うまく絡めて施策を打たれたらよいと思う。これから10年、20年で労働人口は減っていくので、今働いていておられる方、男性、女性、高齢者の全てに言えることであるが、条件が良くなっていくのは当たり前だというふうに思う。

(委員) 意識調査の回収率については、郵送では一般的に30%と伝統的に言われてきたが、ネットの普及等による活字離れもあるのか、25%ぐらいまで落ちてきているという中では比較的高いのかなと思った。

アンケート結果の中で子どものいる・いないを聞いているので、直接子どもにまつわるニーズを持っておられる方と、そうではない方とを一回分けて、子育ての直接的なニーズが何なのかということと県民の意識がどうなのかというのを分けて議論していただくと、政策にも反映しやすいのかなと感じた。

(委員) ひとり親家庭の生活実態調査の中で、通信費が伸びているという話をすると、スマートフォン等の機器を使って仕事をされているという方もおられるのかなという思いをすると、こういったところに何か支援というものができないのかなというふうに思う。

子育てに関する県民意識調査の企業の子育て支援について、子育て中の従業員に役立つものとして特に子どもの看護のための休暇というのが非常に多くなっている。企業に対して、こういった休暇制度というのがもっと充実するような、何か要請とか支援とかという

のができないのかなと思う。

(委員) 今回の調査が子育てに関する県民意識ということで、「子育てに関する」というのがかなり小さな枠になっているのだろうなと感じている。

子育てを支援するということがもう当たり前になってきて、社会も子育て支援はとても大事だという意識醸成もできてきて、ではなぜ増えないんだというところに私はすごく意識を持ってきて、子育て支援とか、子育てに関する以外の要因がものすごく大きくなってきたのだろうなと思っている。

子育て支援について考えることもとても大事であるが、もっと大きな、例えば、ひとり親であっても生活ができるとか、教育費がもっと軽減されるとかいうような他のことを話っていないと、子どもが増えないという大きな流れや前提の下で、その中でも生まれてきた子どもとか、子育てをどう守っていくのかということの割と大きな問題の中の小さな部分を私たちは、考えているのだろうなと思いつつ、その中でも産める方、余裕があって産んでいらっしゃる方の環境はかなり私は体感的には良くなっていると思う。子育て支援も増えている。

一方、何らかのリスクを抱えながらも子育てに奮闘されている方への支援というのは、より一層必要ではないかなと思うので、どうしても、いまだに現場では、子育て支援というと、お母さんと遊ぶ、手遊びをするということがメインになっているので、その方はむしろ恵まれているというぐらいの意識で、そこは保ちつつ、そうでない方の支えをもう少しこういう場で煮詰めていかないといけないのではないかな、そこを逃げてはいけないのではないかなと思う。

(会長) 調査結果に出てきていない人の声をどんな方法でキャッチしていくかというのはとても大事であるということと、子育てという切り口だけではなくて、もっと広い範囲からアプローチをしていくと、もっと全体のところの問題点が分かってくるのではないかなということですが、各部会に下ろして行って、これだけではないデータがいろいろ出ていると思うので、そちらのほうと組み合わせながら見ていくと、さらに立体的になるので、またそれを集約していけたらなと思う。

(委員) 母子家庭の正社員が少し増えて、収入も増えているとのことであつたが、現場から見る感じでは、収入が増えているのは、いろんな窓口での相談状況を見ると、子どもさんを寝かしつけた後、また夜、深夜にコンビニなどにバイトに行ったりとか、そういうダブルワークみたいな方が結構多いと感じている。

また、先ほど、企業は人を求めているという話もあつたが、商工の担当に聞くと、女性などの短時間の雇用というのをすごく求められている企業もあるが、働きたいという方とコーディネートする部分が弱い（県全体で今のマザーズジョブステーションだけでは少し

弱い)のかなと思う。なかなかそこまで行けない方がたくさんおられるので、そういうところの支援が大事かなと思っている。

(委員) 「子育てを支えるために、どのようなことが重要だと思いますか」というところで、やはりそういう子育てに関する悩みとかを相談できる場であったりとか、遅くなったときに子どもを預かる、そういうことを望んでいる人が多い中であって、なかなか認知がされていない。今あるサービスの充実や周知をどういうふうにしていくかについて考えていかななくてはいけないのかなということを感じている。

(会長) 認知度が非常に低いところをどうすればいいのか、部会のほうでも検討していただければと思う。

(委員) 子育てをしながら働く問題点について、「配偶者・パートナーの理解・協力が得られない」というのが増加している一方で、「地域住民に協力を求める」というのも、ここも減少しており、男女共同参画はあまりうまくはいっていないけれども、地域住民さんと触れ合おうというか、そういう煩わしいことはちょっと減らしたかなというようなところが見えてきているのではないかなと思う。子どもたちを育てていく上では、たくさんの方が関わっていかなければ、なかなかうまく育ってくれないのではないかと、現場にいて思うものとする、ここはなかなか難しいところなんだけれども、この部分についてどういうふうに整合していったらいいのかなと思う。

(会長) 次に、議題2「淡海子ども・若者プラン次期計画検討の進め方」、議題3「部会の設置について」は、両方関連があるので、併せて事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料2淡海子ども若者プラン次期計画検討の流れ、資料3子ども・若者プラン次期計画の概要、資料4滋賀県子ども・若者審議会部会委員名簿(案)について説明。

(会長) それぞれの部会でこういうことをやっていきたいとか、これを目指していきたいといったことも含めて、御意見をいただきたい。

(委員) プランをつくろうとする、あれもしないといけない、これもしないといけないとあって、施策は確かに充実してくるのだが、それをいかに届けるかという部分がどうしても欠落しがちなのかなという気がしている。

特に子ども・子育て支援検討部会のところは、割と全体を大きく見渡すというような役割だと認識しているので、具体的な一つの事業をいかにそのニーズに合った届け方をするかというようなことに、少し気を配れたならと感じている。

(委員) 社会的養護検討部会の中で、いわゆる都道府県の社会的養育推進計画についても議論のメニューに入っているかどうかの確認させていただきたい。

(事務局) 都道府県推進計画、今、国から求めております社会的養護で暮らす子どもたちが大幅に転換される計画、家庭養護のほうにというものにつきましては、この社会的養護検討部会でお諮りするという形を想定している。

(委員) 先程、企業も含めて、かなり広く議論しなければいけない部分があるという指摘があったかと思うが、おそらく他の部会の結果待ちとか、きれいに切り取り線で切り分けられない課題というのがどんどん増えているように思うので、各部会での進捗状況に応じて、事務局による取りまとめと総合的に議論する場面が必要だというふうに思う。

また、その議論のベースとなるようなリサーチとか、例えば、さっきの声になっていない声を拾う。例えば、市町村との連携みたいな話があるので、市町村に幾つかの項目で例えばアンケートを取らせていただくとか、そういった既存のデータプラスアルファ、若干の調査とか、そういうことはお許しいただきたいと思う。

特に社会的養育ビジョンというようなかたちで、そういう子どもたちへの支援のあり方というの、今、大きく国もリードとか、非常に議論のあるところなので、それを受けて検討していくということは必要だろうと思う。

(会長) 何かリサーチのために必要だということであれば、来ていただけるような、例えば、病院であるとか施設であるとか、キーパーソンになる方の説明も、お呼びして、お願いできるのではないかと思うので、その辺を多面的に活用させていただきたい。

(委員) 滋賀県らしさとは何かと考えたときに、やはり若者、滋賀県の若者。子どもは減る、若者も減る方向ですけれども、実態的には、本当に減っていくのかなというのが一つあります。僕は何か減っていかないような気がします。ただ地域で、この若者がどう地域で活動しているのかなという点については、青年団体連合会の方にも話を聞きながら考えていきたいと思う。

もう一つ、就労の問題について、5年前は就労が悪い時であったので、就労をどうするんだ、滋賀県ではどんな職業があるんだ、漁業と林業と農業と、他は何だ、これで飯を食べる業種はあるのかというような話について論議をした。

そういう中で、今の若者、どう本当に希望を持って生きられるのかというところがこのポイントかなと思っている。

(委員) 県内には青年団に携わっている若者が多いが、認知度が低いという課題もあり

ながらも、それぞれの地域で、自分の地域の中で仲間と一緒に活動している仲間がたくさんいる。活動を通して自分の地域を好きになって、そこで仕事をして生きていくという選択をしている仲間がたくさんいるので、自分が経験してきたこととか今の若者の現状を踏まえながら、いろんな話ができたらなと思う。

(会長) 今、親の考え方が中・高校生の考え方はかなり近づいてきているという一つのデータがあって、つまり親が親なりに、こうあらねばならないとかということを手高に言っているけど、子どものほうが付いてこなかったりもする現実から、子どもの考え方にだんだん価値観とか近づいていっているというのがある。

それを考えると、対比するものが大人と子どもとか、親と子どもという切り口であれば、たくさんそのデータが出てくるが、どの時点で変わってしまうのかを考えると、やはりこの青年期、この辺りに、要所要所の変り目があるのかなと思いき大變期待をしている。子どもと大人という、一挙に対比するのではなく、デジタルではなくアナログの視点でまた部会でご意見いただきたい。

(委員) 部会ごとに事務局として、たくさん課名が書いてあるが、一緒に議論ができるのか。

(事務局) 短期間で仕上げていかなければいけないという時間的な制約があるので、部会として4つに割ってはいるが、それぞれの部会、他の部会に対しても、いろいろと事務局を通じて情報を共有するなど、連携は密に取っていきたいと思っている。

また、いろんな施策が各課にまたがっているから、その専門性を活かすべく、担当課も入りながら、いろいろと意見を言ってもらえればありがたいと思っている。

(委員) この部会をまたぐという意味でのこの事務局の役割というか、その重要性と、あと、子育て支援という枠から出ていく、働くこととか男女共同参画とかの部分は、やはり事務局を通して、その部局に伝えていただくということはとても大事かと思うので、よろしくお願ひしたい。

(会長) 要請がしていけば来てくださると思うので、どんどん来ていただければいいのではないかと思う。男女共同参画についても、おそらく、お伝えするとかということ以前に、状態とか、知らないに進めないことがあると思うので、現実こんな課題があり、こう計画をしているというような情報を共有できればいいのではないかと思う。

(会長) ひとり親家庭のイメージが前々から定着してしまっていて、逆にかなり変化してきている

部分が表れてきていないのではないかと思います。

以前は子どもを高校にはやらせたいとか、そういったことが多かったが、今、大学や大学院にという声が多くなってきている。高校だけをクローズアップして、学費の問題を語るだけでは、ひとり親家庭の問題が全て浮かんでこないと思う。ひとり親家庭と言っても多様です。願いも異なる。

また、支援を県はかなりやっているが、情報の発信が十分ではなく、伝わっていないことも多い。また情報の発信については、市によっても、積極的なところやいろいろある。

また、基本構想でも本当に難しいなと思っていたが、いつも問われる滋賀県らしさ、そこが結構難しい。滋賀県らしさが出ていないのではと問われる。

では、その滋賀県らしさが、ひとり親家庭の領域では、具体的に何なのか。本当の意味での滋賀県らしい計画はどの辺にあるのかということも考えたい。施策はそれに応じてつくられているものも多いと思いますので、こちらがしっかりフィールドの声を聞き、勉強を続けながら議論を重ねていきたいと思う。

(委員) 同じひとり親家庭といっても、いろいろな家庭がある。地域で活動していると、支えようにも、相手の方からもちょっと支えてほしくないというようなこともあったりして、なかなか支援といっても、一言でしんどい部分というのがたくさんありますので、そこら辺のこともまた考えていただけたらいいなと思う。

(会長) たぶん、関わってほしくないとか、支援してほしくないとかとおっしゃる中の理由がきっとあると思うので、それらを、しっかり背景を見ていくことができれば、より届くものができるのかなというふうに思う。

閉会